

企業名： イビデン

レポート名： 統合報告書 2022

### 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

できる。イビデングループ（以下イビデン）は企業理念として自然環境との調和や豊かな社会の実現を掲げている。p6 ではイビデンが ESG 経営と各事業において特に取り組む SDGs の課題が示されており、p36~p38 では気候変動への対応やカーボンニュートラル目標などの具体的な指標と目標を設定している。以上より、イビデンは環境に対する配慮を重視した経営を将来行うことが理解できる。事業としては電子、セラミックを現在は中心としているが、過去の技術の蓄積が大きくバッテリー用部材や植物活性化剤などの新領域にも着手しており、新事業も行っていくことが分かる。

### 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

あまり分からない。p11~p14 にはイビデンの主力事業とコア技術について書かれており、p29,p31 には「当社の強み」が記載されているが、他社との比較は無く、その事業や技術が同業他社に対してどのような優位性や違いを有しているかは分からない。一方、イビデンは創業以来の技術の蓄積が大きく、p15~p16 から本格的な海外進出をしていてグローバルな展開をしていることがわかり、この 2 点において競争優位性を持っていると言える。しかし全体としては、具体的な事業や技術の優位性があまり理解できなかった。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

できる。p29,31 には各事業のリスクと機会や市場動向が、p30,32 には成長戦略と見通しが書かれている。成長戦略にはリスクなどの事業環境をふまえた事業方針が書かれていて、事業の持続性はここから分かるようになっている。

### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

思う。まず、事業内容として環境や SDGs に目を向けるため、これからの環境問題に関する知識がつくと考えられる。また、P34 で技術開発を担う人材育成として積極的な資格取得の支援や、外部団体や学術機関との知見の交流を行うとしており、また自由な発想でテーマに取り組む時間も設けるとされている。p39~p42 では、女性管理職の登用の増加や男性の育児休業の取得などのダイバーシティや、労働環境の改善に力を入れていることが分かる。このように、人的資本の価値向上に結びつくような制度も整えられている。

### 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

報告書のよかった点としては、イビデンが主力としている事業について電子、セラミック、その他建設、建材、電力と簡潔に示されていて内容も具体的に示されており、製品の写真や活用事例も多く挙げられていて、事業内容とどのような分野に貢献しているのかが明瞭だったのと、各所で環境に対しての言及がされており、企業の環境に対する姿勢も強く示されていた点である。このため、イビデンがどのようなことに着手し、どのような特徴を持っているのかが手短に分かるようになっていた。改善点としては、2で述べたように事業の優位性が具体的な比較などをして示されていなかったため、事業や製品が同業他社と比較したときどのような点で優れているかを示したり、もしくはイビデンの技術がどのように優れているかを数値やデータなどを用いて強調したりなどして、イビデンの強みをはっきりと示すことが必要であると考えた。